

仕事を任せる

チームリーダーや管理職の方で、仕事を部下に任せるということを難しく感じている方も多くおられると思いますが、**仕事を任せるということは、部下を育てる為**になくはないものだと思います。

新卒入社したばかりの新人、中途採用人材、異動で部下になった人など、仕事がどこまで出来るか、やってくれるか不安なもので、失敗されたら困るので、ついつい自分でやってしまうか、いつものように安心を望んで、頼れる部下に任せてしまうということはないでしょうか。

こういうことを続けていると、いつまでたっても部下の底上げが出来ず、チーム、部門の雰囲気も悪くなり弱体化していきます。

経験させるには、少々のことには目をつぶってというのがあります。それが出来るか出来ないかは上司の思いひとつで、何かあればアドバイスやチームでカバー、サポートしあう雰囲気づくりが大事です。

管理職は誰もが自分でやってきた仕事を部下に任そうとする時、まだ少し力量不足かと思うものです。しかし「この部下なら必ずやってくれるだろう」と信じ、又判断したうえで託していけば、この期待と信頼に応えようと部下は努力し、力をつけていくものです。

管理職が大切にしている仕事を任されるからこそ、やる気を出し、喜びを感じてくれるものではないでしょうか。**信頼の気持ち**は自然に部下に伝わっていくものです。

部下は、上司から信頼されていると感じた時、**満足感や遣り甲斐**が得られるものです。上司から信頼されていると感じることで、やる気や熱意が生まれ能力も伸びていくものです。

管理職を務める者として、部下を客観的に見ていくクールさと一人の人間として**見守る温かさ**が必要です。

あなたはいかがですか？

長嶺 堅二郎

